



TITLE:

郷土ノ經濟的研究

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

CITATION:

神戸, 正雄. 郷土ノ經濟的研究. 經濟論叢 1916, 2(4)

ISSUE DATE:

1916-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/126983>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

經濟論叢

號四第

卷二第

論說

●雜種稅ノ分析及其整理

●奢侈ト貧困

●でぐるつゝひゆゝむノ經濟學說三

研究

●不換紙幣流通ノ根據ニ就テ

●保險ト偶然性

●本多利明ノ經濟說三

雜錄

●英國經濟政策ノ變轉期

●貧民ノ體力ニ就イテ

●英國ノ戰爭利得稅

●本邦私出產ノ死産

●歐洲各國ニ於ケル生活費ノ増加ニ對スル防止策

●郷土ノ經濟的研究

●所有權ノ起源

●紙幣ノ下落

●經濟學讀書會記事

●富田博士ヲ悼ム

法學博士 神戸 正雄

法學博士 河上 肇

法學博士 福田 德三

山口高等商業學校教授 作田 莊一

法學士 小島 昌太郎

講師 本庄 榮治郎

助教授 河田 嗣郎

講師 高田 保馬

法學博士 小川 郷太郎

教授 財部 靜治

助教授 山本 美越乃

法學博士 神戸 正雄

講師 本庄 榮治郎

法學博士 河上 肇

講師 高田 保馬

法學博士 織田 萬

郷土ノ經濟的研究

法學博士 神戸 正雄

予ハ最近ノ外遊中、歐洲特ニ獨逸ノ大學ニ於ケル經濟學ノ研究上ニ力ヲ用キツツアル所ノモノガ、經濟ノ實際ニ關スル微細精確ナル研究デアルコトヲ認メタ。此事ハ今ニ初マツタコトデハナク、十年前ニ彼地ニ留學シタトキニモ之ヲ認メタ所デアル。其ハ畢竟スルニ、彼國經濟學者ノ歴史派ニ屬スルモノノ多キニモ因ルシ、又一體ニ獨逸人ナルモノガ學問特ニ經濟學ノ如キ學問ヲ國家目的ニ利用スルヲ忘レザルノ根本精神ニモ因ラウ。即チ彼等ガ經濟學ヲ研究スルノニハ、唯徒ラニ空理空論ニ耽ルヨリハ、寧ロ其

理論ノ證明又ハ反證トナルヘキ材料ヲ實際界ヨリ探シ出サウトスル。又何等カ實際政策ノ必要ト爲シ又ハ其參考タルニ足ルヘキ事實ヲ明ニスルコトヲ努メル。彼等ハ大體、實益ニ注意スル所デアル。勿論學問ナルモノハ實益ヲ超越シタルモノデアリ、空理空論トノミ思フタコトガ實ハ結局ニ於テ大ナル實益ヲ産ミ出ス所デアルノ眞理ハ、獨逸人自身モ理解スル所デアルカラ、彼等ニモ實益ヲ眼中ニ置カザル空論ノ研究者少シトハセヌ。ガ大體カライフト實益本位ノ研究デアル。

斯クテ彼等ノ實際研究ハ小ハ一地方的ノ研究ヨリ、大ハ國際的外國の研究ニモ進ンデ居ル。然シ此外國事情ノ研究トナルト、勿論仲々入念ニ爲サレテ居ルコトハ認ムルガ、何分ニモ原材料ヲ彼等自身作ツタ譯デナク、唯々外國人ノ調べタモノニ依ルコトガ多ク、學問上ヨリ見テ精確度ノ小ナルモノタルヲ免レナイ。然ルニ自國ノ事ニナルト、自分デ直接ニ材料ヲ作ルコトモ出來、特ニ郷土研究トナルト、研究者ガ自分ガ

生育シテ最良ク真相ヲ知了スル所ニ就イテ材料ヲ作ルコト故、一層精確ナルコトガ出來ル。此研究ノ結果ハ餘程信賴スルニ足ルモノトナル。既ニ國家全體ニ亘ル研究ニナルト、矢張り他人ノ調べタ材料ヲ借ルコトトナリ、餘程手落ガ出來テ來テ、信賴スルニ足ラヌコトトナルノニ、狹イ郷土ノ研究トナレバ、研究者自ラ最良ク知ルモノヲ直接採フコトニナルカラ、結果ガ大ニ信賴スルニ足ルモノタルヲ得ルコトトナル。又獨逸デモ國ノ全體ニ關スルモノトカ、比較的大ナル範圍ニ屬スルモノニツイテハ、研究ノ結果モ既ニ多イガ、極狹イ地方的ノニナルト、研究ノ結果ガ割合ニ少イ。其缺陷ヲ補フノ必要モアル。特ニ其ノ比較的研究結果ノ多イトイフ一國全體ニ關スルモノトカ、大ナル範圍ニ亘ルモノニシテモ、其全體の綜合的研究ノ外ニ、尙ホ進ンデ部分的地方的の研究ヲ分析的ニ細カク研究シタルモノガ出來テ、初メテ其研究ガ完全ナルヲ得ルコトトナル。此點カラシテモ是非トモ此方面ノ小地方研究カ重要トナル。研究者自身ノ立

場カライフテモ、一國全體トカ大キナ方ノコトハ既ニ大抵人ガ論シ盡シテ居ルカラ、此方ノ研究トナルト動モスレバ前人ノイフタ事ヲ繰返ヘスニ止マルコトトナル。新機軸ヲ出サウトスルト、小サナ問題ニ入ル外ナキコトトナル。夫ノ自然科學特ニ醫學ノ研究ナドガ、今日ハ最早大ナキ事ヨリハ餘程微細ノ處ニ入り、人間ノ事ヲ研究スルノニ、動物試驗ノ助ヲ借ル所マデ進メデ居ル。經濟學モ今ハ稍々此ニ近キ方向ヲ取ツテ研究ヲ進メヤウトイフノデアル。

デ、予ハ自分ノ擔當スル經濟學演習ニ於テハ固ヨリ自分ノ根本的傾向ニ從ツテ、自由主義ヲ原則ト爲シ、各學生ノ好ム所ノ題ニ就キ、好ム所ノ研究方法ニテ研究セシメ、努メテ各人ノ性癖嗜好ヲ助成シ、最伸ビ易キ所ニ力ヲ用キシメントシテ居ルガ、特ニ自發的ニ題ヲ選ミ得ザル學生ニハ、戒ルベク其郷里ノ經濟事實ニツキ研究スルコトヲ勸メテ居ルノハ實ニ如上ノ研究大勢ニヨリ促サレタモノデアル。其ノ郷土研究ニツイテモ、之ヲ如何ニ觀察シ、如何ナル方針ヲ

以テ研究スルカハ、齊シク各學生ノ自由ニ任カスコトニシテ居ルガ、強キテ予自身ノ之ニツキ興味ヲモツ點ヲ舉クレハ(一)或地方ノ經濟力發達ノ度合、及其他地方トノ比較(二)其地方產業ノ種類、其發達度、其關係の地位ノ變遷、及他ノ地方ノ其トノ比較、并ニ其盛衰興亡ノ原因(三)其地方ノ社會的事情、生計ノ狀況、賃銀、物價事情、(四)交通、保險、金融、貯蓄、組合事業(五)地方財政、其ノ國家財政及上級地方財政トノ關係、其ノ地方經濟トノ關係、地方政治事情等デアル。

此研究ガ學問ノ立場カラモ亦實際政策ノ立場カラモ重要事トイハナケレバナラヌ事勿論デアルガ學生ニ取リテモ、指導者タル予ニ取リテモ最好都合タル所以ノモノガアル。先ツ學生ニ取リテハ、自己ノ郷里ノ經濟事實ノ研究ナラバ、最調ブルノニ容易デアルトイフ利ガアル。勿論既ニ他人ノ研究シタ結果ヲ借り來ルガ如キ研究ニ比スルナラバ、一層困難カモ知レヌガ、其ハ學問上ニハ價值カ少イ。既ニ幾多ノ内外先人ガ研究シ盡シ、説キ盡シタコトノ燒直デハ價值ハ小

イ。學生位ノ力ノ程度デ、學術上有益ナル研究ノ結果ヲ擧グルニハ、其郷土ノ經濟研究ホド容易ナルハナイ。之ニヨツテ原材料ノ扱方ヲモ覺ユルコトガ出來ル。日本全體ニ亘ツタ大ナル問題ヲ扱フニシテモ、此小ナル問題カラシテ初メテ行クノガ順序デ、先ツ此小サナ問題ヲ眞面目ニ忠實ニ研究スル慣習ヲツケテ置カヌト、大ナル問題ニ當ツテ不眞面目ナル大言壯語ニ耽ルコトトナル嫌ガアル。次ニ指導者タル予ニ取ツテハ此郷土研究ガ大ニ結構デアル。學生ノ提出スル報告ニテモ、自分ノ千萬承知シテ居ルコトヲ持ツテ來ラルルト、之ヲ讀ム爲メニ時間ヲ費スノガ吝シクナルガ、各地方ノ各種ノ事實トナルト、自分ノ細カク知ラヌコトガ多イカラ、大ナル興味ヲ以テ讀ムコトガ出來ル。特ニ予ハ豫ネテ日本ノ國民經濟ノ特質特異現象ニ注意ヲ拂フモノデアリ、之ニツキ今日迄屢々外國ノ學界ニ報告シタ所デアルガ、何分ニモ日本ノ全局ニ亘ツタ概括的觀察ハ出來テモ、部分的地方的ノ精確ナル智識ヲ缺イタ自分ノ報告ニハ、未ダ自ラ

不満足ヲ感ジツアル所デアル。予ノ地方的ノ智識ハ實ハ關東以西鹿兒島マデニ限局セラレテ、東北及北海道ハ全然見タコトガナイ。海外領域デハ朝鮮ヲ知ルノミデ、臺灣モ關東州モ、樺太モ南洋モ知ラナイ。然ルニ此演習ニ於テ永イ年月ノ間ニ學生諸子ヨリ幾多ノ地方的研究ノ報告ヲ受取ルコトガ出來レバ、假令之ニヨリ到底日本ノ全地方事情ヲ知得スルコトガ出來ナイニセヨ、少クトモ各地方ノ摸型的ノ事實ヲ會得スルコトガ出來テ、予ノ研究又ハ智識慾ハ大ニ満足セラレ、予ノ日本ニ關スル理解ハ益々精確ニ近ツクコトガ出來ヤウ。予ハ即チ學生諸氏ノ助力ニヨツテ自己ノ研究ヲ大成センコトヲ期スルモノデアル。